

日本周産期・新生児医学会 第 42 回周産期学シンポジウム演題募集要項

テーマ：周産期の栄養と代謝を考える

演題募集

このたび、第 42 回の周産期学シンポジウムのテーマを「周産期の栄養と代謝を考える」としました。栄養・代謝および双方に關与する生体機能は妊産婦と胎児・新生児にとって生の根幹を支えるものであり、それらを様々な視点から探究することは周産期医療の本質を考えることに他なりません。

妊婦の適切な栄養管理は不可欠です。特に近年では妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病などの産科的異常のみならず児の長期的な健康を視野に入れた妊娠中の至適体重増加に関する提言がなされております。また、糖尿病や腎疾患等の合併例では母児での予後改善を考慮した特別な栄養管理が求められます。

近年、無痛分娩のニーズが一層高まっておりますが、産後の早期回復を目的とした分娩経過中や帝王切開術後の経口摂取制限のあり方、新生児への影響を踏まえ代謝作用時間を考慮した麻酔鎮痛薬の選択についても議論されています。

早産児や極低出生体重児においては、栄養蓄積量が少なく、容易に栄養学的危機状態に陥る危険性があるばかりでなく、その後の成長・発達にも影響することが知られています。鉄欠乏性貧血では、鉄剤投与に関するガイドラインも策定されています。未熟児代謝性骨疾患などにはいくつかの栄養要因があるとされています。また胎児期から小児期の栄養に関連したエピジェネティクス変化が成人期の慢性疾患発症リスクにも影響を与えることも報告されています。

児の先天性心疾患などにおいては心不全を来し栄養不良の状態に陥ることもあります。先天性代謝異常症やHirschsprung病類縁疾患のような腸管不全を起こしうる消化管疾患は特殊な栄養法や長期の静脈栄養の併用や特殊な栄養法を余儀なくされます。近年、腸管不全関連肝機能障害（IFALD）に対する ω 3系脂肪酸製剤の投与の有効性が注目されています。

母乳栄養が様々な理由により困難であるときの支援についても多面的に行われなければなりません。また、近年ではマイクロバイオームの母乳育児への影響などについても注目されています。

第 26 回周産期学シンポジウムにおいて「周産期の栄養」に関して検討されてから 15 年近くが経過しました。その間、本領域における研究は発展し、新しい知見が得られていると考えます。そこで、今回「代謝」というキーワードを加えて多角的に検討して頂くことといたしました。

周産期学シンポジウムでは、発表の約 1 年半前に応募を受け付け、運営委員とともに研究計画等を吟味し、内容を発展させます。このような特性上、既報の研究成果のみではなく、新たな知見を含んだ発展性のある意欲的な研究課題の応募を希望します。また、基礎研究の演題も受け付けますが、臨床応用への道筋や客観的な評価が明確である演題を望みます。

キーワード

輸液、栄養、代謝、糖代謝、アミノ酸代謝、脂質代謝、ビタミン、微量元素、水・電解質異常、先天性代謝異常症、合併症妊娠、食事療法、肥満、やせ、メタボリック症候群、栄養評価、栄養管理、栄養指

導、栄養相談、母乳栄養、経腸栄養、early aggressive nutrition、経静脈栄養、アミノ酸製剤、脂肪製剤、サプリメント、特殊ミルク、胎児発育不全 (fetal growth restriction: FGR)、small-for-gestational-age (SGA) 児、SGA 低身長、DOHaD、子宮外発育不全 (extrauterine growth restriction: EUGR)、慢性肺疾患、アディポシティリバウンド (Adiposity rebound: AR)、腸管不全、短腸症候群、壊死性腸炎、ミルクアレルギー、乳幼児消化管アレルギー、鉄欠乏、亜鉛欠乏、胆汁鬱滞性肝障害、Hirschsprung 病、Hirschsprung 病類縁疾患、先天性心疾患、長期留置型カテーテル、カテーテル関連敗血症、腸内細菌叢、プロバイオティクス、プレバイオティクス、シンバイオティクス、マイクロバイオーム、無痛分娩、麻酔薬、手術侵襲

応募要項

1. **応募書類**：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書*」の3点です。下記URLよりデータをダウンロードしてください。

- 1) 応募用紙：http://www.jspnm.com/syukai/doc/oubo_42.xlsx
- 2) 抄録用紙：http://www.jspnm.com/syukai/doc/syoroku_42.xlsx
- 3) 発表者の利益相反自己申告書：<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rsj2A.docx>
<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rsj2A.pdf>

(Word版にてフォーマットが崩れる場合は、PDF版をご利用ください)

*利益相反指針及び指針細則は以下のURLを参照ください。

<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rss190816.pdf>

2. 応募演題の注意点

- 1) 同一施設からの応募数に制限はありませんが、同一応募者は複数の演題を応募できません。
 - 2) 応募者は原則として会員（応募～発表時まで）かつ単名に限ります。なお、共同研究者等の名前を示す場合は、演題発表の際に謝辞等として示してください。
 - 3) 過去に周産期学シンポジウムで応募演題を2回以上発表した会員は演題応募できません。
 - 4) 前向き・後ろ向き研究に関わらず、応募には施設の研究倫理審査委員会・Institutional Review Board等への申請が済んでいることが必要で、最終選考（2023年6月予定）までに承認が必須です。
3. **応募方法**：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書」を、E-mail の添付文書として学会事務局宛、件名は「第42回周産期学シンポジウム応募演題」として送信ください。

4. 応募用紙

- 1) 下記【「応募用紙.xlsx」への入力に関する注意】に沿って作成ください。
- 2) 応募用紙のファイル名は「発表者名-応募用紙.xlsx」としてください。

5. 抄録本文

- 1) 抄録本文は、目的～考察：1,600字以内+今後の研究計画（シンポジウムでの発表までに実現可能な内容）：200字以内（文字数厳守）、図表不可とし、MS Excel形式で保存してください。
- 2) 文字数のカウントは、それぞれの枠下に返された数とします。
- 3) 目的、方法、結果、考察、今後の研究計画の順に記載ください。
- 4) 個人情報や生命倫理等、特に倫理的配慮を必要とする研究である場合は、行った具体的配慮について記載ください。
- 5) 抄録本文のファイル名は「発表者名.xlsx」としてください。

6. 発表者の利益相反自己申告書

- 1) 【利益相反に関する自己申告書の提出】に沿って作成ください。
- 2) 利益相反自己申告書のファイル名は「発表者名-利益相反.docx（または.pdf）」としてください。

7. **演題送信先**：info@jspnm.org（日本周産期・新生児医学会事務局）

8. **応募締切**：2022年9月30日（金）13:00 厳守

9. **問合せ先**：日本周産期・新生児医学会事務局

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30 メジカルビュー社内

TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

*演題受付後、10営業日以内に事務局より「受付メール」をお送りいたします。連絡がない場合は事務局に問合せください。

*応募演題は周産期学シンポジウム運営委員会による書類選考、一次選考、最終選考を行い、2023年6月までに第42回 周産期学シンポジウム口演演題として決定する予定です。

- *書類選考：演題応募者には、2022年11月25日（金）までに書類選考結果をお知らせいたします。
- *一次選考：書類選考通過者は、2022年12月16日（金）の一次選考会（東京）に出席いただきます。一次選考会では、スライドを用いたプレゼンテーション（7分間：時間を厳守して下さい）と、運営委員との質疑応答（8分間）を行います。一次選考会終了後、選考結果をお知らせいたします。応募者が出席できない場合は、演題が不採択となることがあります。
- *最終選考：一次選考通過者は、2023年6月の最終選考会（東京）で再度スライドを用いたプレゼンテーション（10分間：時間を厳守して下さい）と、運営委員との質疑応答（8分間）を行います。最終選考会終了後、最終結果をお知らせいたします。

【「応募用紙.xlsx」への入力に関する注意】

1. 必要事項はすべて入力ください。
2. 非会員の方は応募の時点で入会手続きを済ませて頂きますようお願いいたします。 学会ホームページより手続きできます。

問合せ先：日本周産期・新生児医学会事務局

<https://www.jspnm.com>

TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

【利益相反に関する自己申告書の提出】

日本周産期・新生児医学会が定めた利益相反指針及び指針細則に則り、「発表者の利益相反自己申告書（様式2-1）」の提出が必要となります。

原則として利益相反の有無は演題の採択には影響しません。

演題が採択された場合、利益相反状態の有無にかかわらず、発表演題の最初のページ（スライド）に利益相反状態を明記してください。記載例を以下に示します。

◆利益相反状態にない場合の記載例

筆頭演者氏名：○○○○

研究責任者：○○○○

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

◆利益相反状態にある場合の記載例

筆頭演者氏名：○○○○

研究責任者：○○○○

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態は以下のとおりです。

- ・報酬額/ ○○製薬株式会社
- ・講演料/ □□製薬株式会社
- ・原稿料/ ◇◇製薬株式会社
- ・研究費・助成金（寄付講座所属）/ 株式会社××

2022年2月

日本周産期・新生児医学会
周産期学シンポジウム運営委員会